

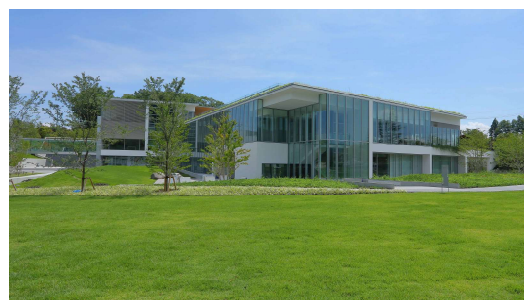
2026 年 1 月 16 日

お知らせ

長野県立美術館

2026 年度 展覧会ラインナップのお知らせ

長野県立美術館の 2026 年度展覧会ラインナップが決まりました。2026 年は長野県が 150 周年、当館がリニューアルオープン 5 周年を迎えます。当館ではこれを記念した企画展や、本館・東山魁夷館の各コレクション展など、多彩な事業を企画しております。どうぞご期待ください。



長野県立美術館（本館）外観

■2026 年度 展覧会ラインナップ

▶企画展

長野県 150 周年記念 / リニューアル・オープン 5 周年記念

「再編する—NAM コレクションの現在」

会期：2026 年 4 月 29 日（水・祝）～ 6 月 7 日（日）

1966 年に開館し、2021 年のリニューアル・オープンで新たなスタートを切った長野県立美術館。本展には、この 60 年間で収集した 5,800 点を超えるコレクションから多彩な作品が並びます。さらに 4 名のゲストアーティスト〔平田尚也、Barrack（古畑大気＋近藤佳那子）、佐藤朋子〕の作品を加え、これまでの当館の歩みを振り返り、これからの美術館を考えます。



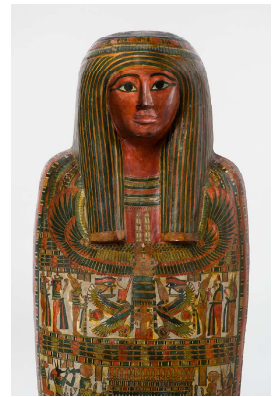
中谷美二子《Dynamic Earth Series I》霧の彫刻 #47610、2021 年
長野県立美術館蔵 ©Fujiko Nakaya

長野県 150 周年記念 / リニューアル・オープン 5 周年記念

「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」

会期：2026 年 6 月 27 日（土）～ 9 月 27 日（日）

ブルックリン博物館が誇る古代エジプトコレクションから、選りすぐりの名品群が長野に集結。彫刻、棺、宝飾品、陶器、パピルス、そして人間やネコのミイラなど約 150 点の遺物を通じて、私たちの想像を超える高度な文化を創出した人々の営みをひも解き、最新技術を使ったピラミッドの研究結果まで、映像や音声も交えて紹介します。



《神宮ホル（ホルス）のカルトナージュとミイラ》（部分）
前 760 ～ 前 558 年頃 ブルックリン博物館蔵
Photo: Brooklyn Museum

長野県 150 周年記念 / リニューアル・オープン 5 周年記念

「カンディンスキー 世界は鳴りひびく

—日本のコレクションでたどる画業と反響—

会期：2026 年 11 月 7 日（土）～ 12 月 27 日（日）

近現代美術の重要な作家であり、抽象絵画の成立を主導したワシリー・カンディンスキー（1866 ～ 1944）。自らが芸術の本質と考えた「内なる響き」により、形態と色彩の絶え間ない探求を続けた画家の足跡を、初期から晩年までの国内所蔵作品から展観するとともに、日本の芸術家との関係にも焦点を当てます。



ワシリー・カンディンスキー 《鎮められたコントラスト》
1941 年 宇都宮美術館蔵

リニューアル・オープン 5 周年記念

「辰野登恵子展」

会期：2027 年 1 月 16 日（土）～ 3 月 22 日（月・休）

長野県岡谷市出身の辰野登恵子（1950 ～ 2014）は、日本における戦後の抽象絵画を代表する作家の一人です。本展では平面のメディアに拘り、独自のイメージ（形）を追求し続けた辰野の約 40 年にわたる画業を総覧すると共に、当時の貴重な資料や関係者の証言を交え、画家／版画家・辰野登恵子を形作ったもの、そして次世代へ遺したものを解析します。



辰野登恵子《UNTITLED 94-8》1994 年 長野県立美術館蔵

▶コレクション展

「NAM コレクション 2026」

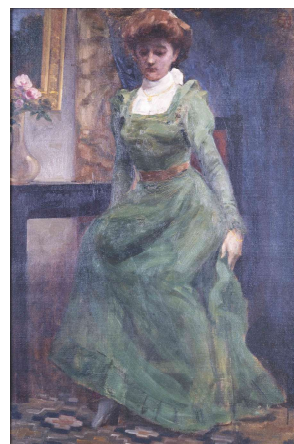
第Ⅰ期：5月21日（木）～8月17日（月）

第Ⅱ期：8月21日（金）～11月17日（火）

第Ⅲ期：11月19日（木）～2027年2月15日（月）

第Ⅳ期：2027年2月19日（金）～4月27日（火）

信州出身の作家たちや、信州の風景が描かれた作品を中心に形成された長野県立美術館のコレクションから、一年を通して、洋画、日本画、工芸等さまざまなジャンルの収蔵品を展示します。



中村不折《西洋婦人像》1904年

「東山魁夷館コレクション 2025」

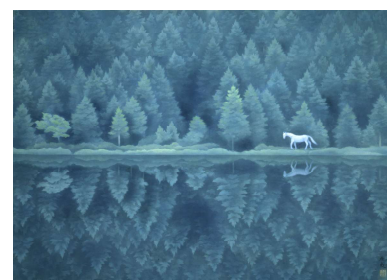
第Ⅰ期：5月14日（木）～7月27日（月）

第Ⅱ期：7月31日（金）～10月27日（火）

第Ⅲ期：10月29日（木）～2027年1月26日（火）

第Ⅳ期：2027年2月11日（木・祝）～4月20日（火）

2026年度は、《緑響く》や《窓》、《沼の静寂》など本制作30点あまりを4期に分けてご紹介します。日本の古都を描いた京洛四季や大和春秋の連作、ヨーロッパの自然や街並みを描いた風景、白い馬の見える風景や唐招提寺御影堂障壁画の準備作など、自然を深く見つめ、静謐な世界を表現した東山芸術の全容を、一年を通してお楽しみください。



東山魁夷《緑響く》1982年
（第Ⅰ期 展示予定）

「アートラボ 2026」

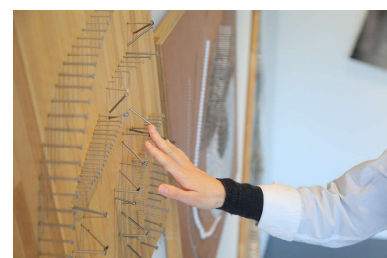
第Ⅰ期 ひらくツール：4月18日（土）～7月12日（日）

第Ⅱ期 金箱淳一：7月18日（土）～10月12日（月・祝）

第Ⅲ期 西村陽平：10月17日（土）～2027年1月17日（日）

第Ⅳ期 光島貴之：2027年1月23日（土）～4月11日（日）

視覚以外の感覚も使った鑑賞が可能な作品を展示する「アートラボ」。誰でも立ち寄れ、新たな発見が生まれる場となることを目指しています。触れて、見て、聴いて、アートを楽しみませんか。



▶オープンギャラリー展示

「公開制作 vol.6 安部泰輔 美術の休息」

会期：2026 年 5 月 30 日（土）～ 9 月 6 日（日）

古着や端切れを使って造形する作家、安部泰輔を招へいし、長野県立美術館のコレクション作品や善光寺周辺にまつわる物事をモチーフとして、触れたり参加したりできる作品の制作やワークショップを展開します。



安部泰輔「黄金森」黄金町パズール 2024、横浜
写真：©ELEMENT 久保 貴史

▶交流名品展

おぶせミュージアム・中島千波館 × 長野県立美術館 交流名品展

「近代から戦後へ－信州のダイナミズム」

会期：2026 年 8 月 8 日（土）～ 10 月 5 日（月）

会場：おぶせミュージアム・中島千波館

おぶせミュージアム・中島千波館との共同開催となる本展では、日本画家の中島清之が小布施へ疎開したことがミュージアム開館へ繋がっていることをふまえ、信州出身と疎開作家の作品を通して、近代から戦後に至る美術の流れをご紹介します。

▶移動展

2026 年度長野県立美術館移動展

会期：2026 年 10 月 24 日（土）～ 11 月 23 日（月・祝）

会場：長野県伊那文化会館 美術展示ホール

長野県立美術館のコレクションをより多くの方に鑑賞いただくため、長野県内各地で開催している「移動展」。2026 年度は伊那市で開催を予定しています。

※本プレスリリースの内容は 2026 年 1 月 16 日現在のものです。事業内容等に変更が生じる場合がございます。

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp